

ホスピス財団 第1回 国際セミナー

Whole Person Care におけるコミュニケーション力



ホスピス財団の新しい企画、国際セミナーが 11月25日、26日、Gramling 先生を講師として、東京と大阪において開催されました。

今回のセミナーでは、2回のレクチャーの合間に参加者全員によるグループワークが行われ、医療者が終末期における不確かな予後をどのように伝えるべきかを改めて考え、学ぶ機会が与えられました。

テーマ：Whole Person Care におけるコミュニケーション力

講師：Robert Gramling 先生
(米国バーモント大学 緩和医療学部)

日時：東京会場 11月25日(土)

大阪会場 11月26日(日)

参加者：東京会場 34名

大阪会場 64名

国際セミナーに参加して

京都大学医学部附属病院 緩和医療科 木原 歩美



11月25日に東京で行われた Gramling 先生のセミナーに参加させていただきました。居合道にも精通しておられる先生の講義は、ゆったりとした優しい語りで、和やかに始まりました。

講義では Whole Person Care や緩和ケアにおける予後の不確実性について学びました。医学の進歩によりがん治療の選択肢が非常に増えたことで、予後予測は複雑なものとなっています。医療者は患者に正確な情報とその不確実性を丁寧に伝えていかなければなりません。患者が自らにとって最善の選択肢を見つけ出すためには、医療者はただ伝えるだけではなく、共に考えていくようなコミュニケーションが必要であり、Curing (治癒) だけではなく Healing (癒し) を大切にする Whole Person Care が重要です。

Whole Person Care におけるコミュニケーションの実践として、米国で開発されたコミュニケーションのコーチング方法である VITALtalk (<http://vitaltalk.org/>) の一部を用いて改変されたグループワークが行われました。その中で行われたロールプレイはこれまで経験したことのない方法であり、多くの発見がありました。まず、前半のロールプレイでコミュニケーション力の向上にはトレーニングが有効だということ学びました。その後マインドフルネス瞑想を行い、後半のロールプレイを行いました。前半よりも気持ちが落ち着き、医師役として言葉に思いを乗せて患者役に状況を伝えることができました。さらに患者役になった時にも医師が自分に対して心を開きしっかり話を聞いてくれる感覚が得られ、医師がマインドフルな状況にあると患者に与える影響が異なってくることを体感しました。

今回学んだ Whole Person Care におけるコミュニケーションとして、これからもトレーニングを積み重ねながら、自分自身の精神的なセルフケアも大事にマインドフルネスの学びを深めていきたいと思います。体験を通して様々なことの「気づき」が得られたとても充実した機会でした。

第9回 グリーフ&ビリーブメントカンファレンス

今回は岩切 昌宏氏（大阪教育大学）と垣添 忠生氏（国立がんセンター名誉総長）による基調講演が行われ、引きつづき4名のシンポジストによるシンポジウムが行われました。

また、新たに「日本グリーフ&ビリーブメント学会」が設立されたという報告がなされました。

- ・日 時 2018年1月28日（日）10時30分～16時30分
- ・場 所 龍谷大学アバンティ饗都ホール
- ・参加者 約100名



第9回グリーフ&ビリーブメントカンファレンス に参加して

元関西学院大学大学院人間福祉研究科 高橋 耕生



今年もグリーフ&ビリーブメントカンファレンスが開催された。私個人としては4回目の参加であり、毎年恒例行事となりつつある。本会は日本では数少ないグリーフに焦点を当てた研究会であり、大学・大学院においてグリーフを学んだ私にとっては、大変貴重な場であり続けている。今回は基調講演として岩切先生・垣添

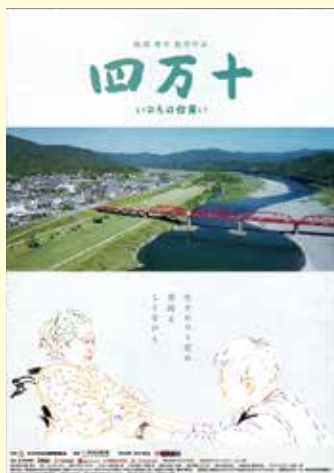
先生、シンポジストとして村上先生・多田羅先生・石田先生・坂口先生がご講演下さった。いずれの先生方もグリーフを学んでいる者ならば、一度は聞いたことがある御高名な先生方であり、今回も貴重なお話を伺うことができた。

各講演では、それぞれの先生方が行った実践・経験を学術的に振り返り、報告されていた。詳細な報告をこの場で述べることはできないが、どの先生方も自らが持つ実践の場を大事にされており、その上で研究を

されている印象であった。また、今回の研究会では日本におけるグリーフケア領域の拡大を感じることができた。というのも、今回の講演では、実践の場として「学校」「病院」「DMORT（災害死者家族支援チーム）」「行政」と多岐に渡っていた。一概にグリーフといっても各々が経験した死別は全てに固有性があり、それぞれに見合ったグリーフケアを提供していく必要がある。そのため、このような各機関においてグリーフケアを提供できる場があることは、とても重要なことであると感じる。また、遺族ケア介入レベルについての石田先生のお話も肝に銘じておかなければならないと考える。大切な人を亡くすことは精神疾患にもつながる可能性があり、専門家が必要になる場合もある。私は4月からグリーフケアを実践する立場になるが、“できること”“できないこと”を見極めていく必要があると感じることができた。

このように本当に貴重なお話を伺うことはできたが、参加者が100名弱だったことには残念な気持ちがある。講演でも話題に出たが、グリーフケアの情報が届かない人、またはその場へ赴くことができない人へのアプローチはこの領域の大きな課題であるように感じる。来年からは日本グリーフ&ビリーブメント学会が開催されるが、多くの人にグリーフケアの場やグリーフの正しい知識が伝わることを期待したい。

映画「四十万…いのちの仕舞い」のご案内



ホスピス財団が後援する新しい映画「四十万 いのちの仕舞い」が、全国で順次公開上映されています。高知県四十万十川の美しい四季を背景に、地域に根ざした診療をされている小笠原 望医師と患者の方々との心暖まる交流がドキュメンタリーで紹介されています。

お知らせコーナー

ホスピス財団 第2回国際セミナー

『Macaulay 先生による『米国の緩和ケアにおける倫理的ジレンマ』

- ・2018年6月30日(土) 東京
- 7月1日(日) 大阪

参加費：無料

詳細、申込み方法はホームページから。



ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

- ・2018年6月8日(金)
- ・札幌市教育文化会館

詳細は後日、ホームページに掲載いたします。

Whole Person Care ワークショップ

好評のWPCワークショップを本年も開催されます。

- ・コースI：2018年8月4日(土)
- コースII：2018年8月5日(日)
- ・会場：千里ライフサイエンスホール

詳細、申込み方法はホームページから



ホスピス・緩和ケア白書 2018 発売中

特集テーマ：

がん対策基本法の“これまで”と“これから”

発行所：青海社 2,200円+税

お求めは書店で

(ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております)



新刊・近刊紹介

人は、人を浴びて人になる

夏苺郁子 著

(ライフサイエンス出版 1500円+税)

母親が精神病を患い、自身も精神病を患い、その後医師として、精神科を担当するという壮絶ともいべき人生を経て、今に至っている遍歴が記されている。

回復の過程で、救世主とも思われる人々との出会いは、著者に先が見えない中でも一歩を踏み出す勇気を与えている。まさに、著者は人を浴びて(深く人格的な交わりを通して)回復へと向かった。

本著は心が病んだ一人の女性が、人との運命的な出会いと交わりによって回復されていく姿を見事に証している。それ故に、Wounded Hearer として今も患者さんと向き合う力が与えられているのではないだろうか。一読を薦めたい。



こんにちは
ホスピス

地域でとりくむホスピス緩和ケア

～がんになっても安心して暮らせる街をめざして～

岩手県立中部病院 緩和ケア科 星野 彰

岩手県立中部病院は県中部地域(花巻、北上、遠野、西和賀)のがん診療連携拠点病院として平成21年に開設し、現在、年間1,000人を越えるがん患者さんが来院されます。私たちの目標は「いつでもどこでも緩和ケア」。緩和ケア病棟だけでなく一般病棟にも自宅にも施設で暮らす患者さんにも緩和ケアが届くように、病院と在宅チーム、

行政、市民が連携して患者さんと家族の支援に取り組んでいます。

緩和ケア病棟は24床で、設計段階では

地上6階にできる予定でしたが、8,000人の市民の署名が大きな力になって本院とは別に地上1階に建設されました。すべての部屋にバルコニーがあって自然の風を感じることができます。玄関前にはボランティアの作った花壇があり、庭には畑があって春にはイチゴが食べ放題、秋には畑でとれた野菜で作った芋の子汁がふるまわれます。音楽、イベント、喫茶、お花、アロマのボランティアが緩和ケア病棟で活躍しているほかに、病院の玄関ロビーにあるがん情報サロンでは、ピアサポーターが外来に通院する患者さんを支えています。

がんになっても安心して暮らせる街をめざして、私たちはこれからも地域と一緒に患者さんと家族を支え続けていきたいと考えています。



スタッフとボランティアを交えての
楽しいお茶のひと時



ホスピス財団
2018年度 事業計画書 (概略)
(2018年4月～2019年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募)
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業 (第4次調査・3年目)
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2019』
(特集テーマの概説+データブック) 作成・刊行事業
4. 意思決定支援に関する背景・課題の整理と普及に関する検討
5. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
6. Whole Person Care ワークショップ開催事業
7. グリーフケア研修セミナー開催事業
8. 高齢者介護施設等の看取り教育研修 (3年目)
9. 『Whole Person Care: Transforming Healthcare』翻訳事業
10. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業
11. 医療者の燃え尽き症候群防止プログラム GRACE
普及のための指導者研修会開催事業
12. 一般広報活動事業
13. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
14. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
15. ホスピス財団 第2回 国際セミナー開催事業
16. International Congress on Palliative Care 学会参加
17. 日本・韓国・台湾 第2期共同研究事業 (4年目)
18. APHN 関連事業費

ホスピス財団が 内閣府より
「褒章条例に基づく公益団体」に認定されました

ホスピス財団は、内閣府から2017年9月15日付で「褒章条例二関スル内規」第2条による公益団体として認定を受けました。

この認定に基づき、本財団に対し3年の期間内に、個人の場合は500万円以上、団体の場合は1,000万円以上の寄附をいただいた場合「紺綬褒章」が授与されます。



寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは06-6375-7255です。

寄付者一覧 (2017年9月～2018年2月 順不同、敬称略)

(団体) 株式会社 三孝社 阪神聖書研究会
遺愛女子中学・高等学校

新規賛助会員 (2017年9月～2018年2月 順不同、敬称略)

(個人) 山田 和広 浅井 清司
谷川 あづさ 安岡 由美

(団体) 医療法人 彰和会 北海道消化器科病院

ホスピス財団 2018年度収支予算書 (概要)

2018年4月1日から2019年3月31日まで (単位: 千円)

科 目	2018年度予算
【経常収益】	
①基本財産運用益	3,300
②受取寄付金	27,200
(内訳) 賛助会費収入	21,700
一般寄付金収入	500
使途指定寄付金	5,000
③雑収益	828
経常収益計 (A)	31,328
【経常費用】	
①事業運営費	47,450
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	21,635
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	13,807
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	6,015
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	5,993
②一般管理費	6,107
経常費用計 (B)	53,557
当期経常増減額 (A - B)	▲22,229

不足分は前期繰越金等で充当予定

編集後記

保山耕一氏の映像作品「奈良 時の雫」がYOUTUBEで静かなブームとなっているようである。保山さんはフリーカメラマンとして人気番組「情熱大陸」などを手掛けていたが、2013



年8月、直腸がんで放置すれば余命は2カ月と宣告される。治療には成功したものの排便障害が残り、仕事は激減した。そしてリハビリ代わりに、動画も撮れる一眼レフカメラと三脚を携え地元・奈良を歩き始めた。しかし再発が判明し、抗がん剤治療をしながらも撮影を続けておられる。

氏の作品の美しさ、感動を覚えるのは映像のテクニックだけではないと思う。自らのいのちの限りを知り、悠久の歴史の中での一点でしかない人生を感じる故になせる技ではないだろうか。

今年も桜が咲きます。保山さんは桜を見て、そこに何を感じられるのでしょうか? どんな作品が出来るのでしょうか。そして、私たちは桜を見て、何を思うのでしょうか。

さまごまのことおもひ出す桜哉 芭蕉

編集子